

～あおもり農商工連携助成事業活用事例～
「冷凍いちごの商品化で八戸いちごバーガー誕生」

○事業活用者

木村農園（農業者）

連携者：（有）木辨商店（中小企業者）

○概要

木村農園は八戸市市川地区で、夏季冷涼で冬季多日照な気候を活かして、四十年以上いちご栽培に取り組んでいます。

同農園では、地元の商業者である木辨商店と連携して、生果と合わせて、「いちご」の周年供給を目指して、「冷凍いちご」を開発しました。「冷凍いちご」は、地元のカフェ等で「いちごバーガー」などに利用され話題になっています。



木村農園（木村宏太郎氏）（左）と
（有）木辨商店（代表 木村勝一氏）（右）



木村農園のいちご

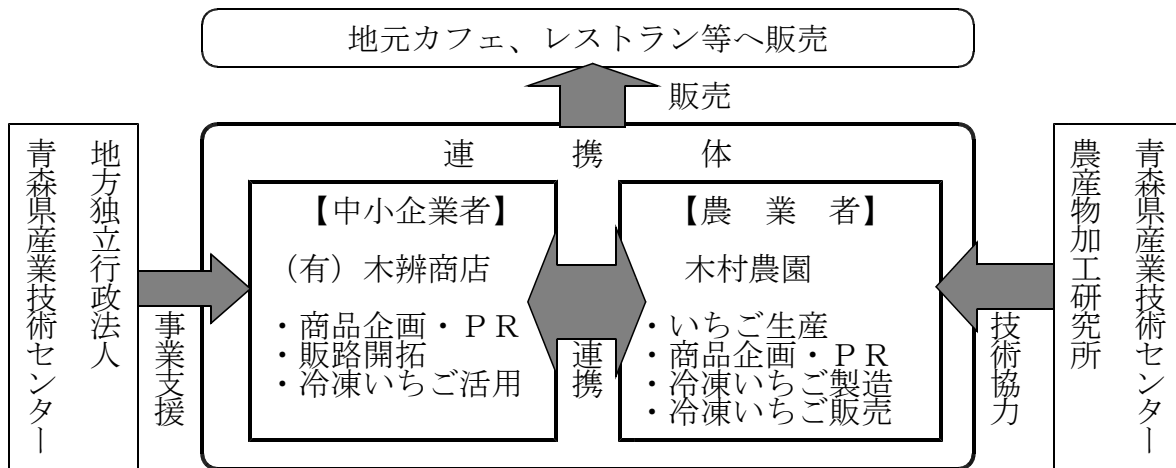


図 事業推進体制

○事業を活用したきっかけ

「冷凍いちご」の開発を検討していた時に、県のホームページで農商工連携助成事業を知り、県民局農業普及振興室に事業の活用について相談したことが、本事業に取り組むきっかけとなりました。この事業の条件となる農業者と商工業者の連携については、農産物の販路開拓や活用に関するノウハウを持ち、以前から包装資材のデザイン等でお世話になっていた（有）木辨商店と連携することにしたそうです。木辨商店は精米所を経営するほ

か、カフェも経営しており、当初から「冷凍いちご」の活用に興味を持っていたとのこと
です。

○商品開発・販路開拓

「冷凍いちご」の製造は、収穫後、へたを取ってパッキングして冷凍する作業となります。試作段階で、当センターの研究所の一つ農産物加工研究所から冷凍方法や冷凍商品の取扱について指導を受けて助かったそうです。冷凍いちごの取引先は、市内のカフェ、レストラン、ジャム工場で、「いちごバーガー」のほか、「アイス」、「ジュース」などに利用されています。



いちごバーガー
(提供 SLOW CAFE #01 (八戸市))



冷凍いちご

○助成金の活用方法

助成金は「冷凍いちご」用のストッカーや密封包装機のリース代、のぼりやパンフレットなどの広告宣伝費、商品PRイベントの企画費用などに使用されました。

本事業を活用することによって、「冷凍いちご」の商品化をはじめ、商品PRイベントなどを開催して、いろいろな人たちと繋がることができたことが大きい成果だったとのこと
です。

○事業活用者の一言（木村宏太郎さん）

平成二十三年三月に、東日本大震災で被災し、地域を元気にするために何かやりたいという強い思いで取り組んできました。「冷凍いちご」の商品化を木村農園のPRに結び付けて、いちごの販売を拡大するとともに、同時に八戸のいちごもPRしたいと考えています。

いちごバーガーはとても美味しいので、八戸に来たら是非食べてみてください。

○青森県産業技術センターから

自分で生産した農産物を活用して、加工品などを新たに商品化したい農業者の皆さんは、木村農園さんのように県のホームページなどの広報をご覧ください、最寄りの県民局県農業普及振興室等にご相談いただくと商品化の近道になると思います。

新規の商品化に取り組む際には、あおもり農商工連携助成事業の活用をご検討くださるようお願いします。

また、必要に応じて当センターから技術協力させていただきますので、お気軽にご相談ください。